



鹿児島県立錦江湾高等学校図書館だより

カラフル

2026.2 No.11



蔵書検索・予約はコチラ

蔵書点検前に本をすべて返却しましょう

まほら館では2月24日(火)から1週間程蔵書点検を行います。

蔵書点検とは、本がきちんと正しい場所にあるか、無くなったり破れたりして

いないかを確認する作業のことです。昔は“虫干し”や“曝書”^{ぼくしょ}とも言いました。

本の状態を確認するために欠かすことのできない大切な作業です。

いま借りている本は**2月20日(金)までにすべて返却してください。**

なぜ蔵書点検のことを『虫干し』というの？

本にはさまざまな小さな虫たちが住んでいることがあります。本を外で干すことで、それらの虫を追い払うことができるのです。また、カビの発生を抑制するのも効果的です。

本にやってくる虫たち(一例)



チャタテムシ

チャタテムシは本についたホコリやカビを好んで食べ、フンによりカビを広げていきます。お茶を点てるような音を出すことからチャタテムシと呼ばれています。



シバンムシ

本にいるのは主にフルホンシバンムシです。シバンムシはシミよりも顎が大きく、トンネルのように食べ進んでいくので本をボロボロにしてしまいます。見かけたら要注意です。



シミ

漢字では紙魚と書きます。その名とおり本や段ボールなどの紙類を食べます。食べられた紙は、表面を薄く剥ぎ取ったようになります。西洋紙魚と大和紙魚がありますが、西洋紙魚の方が銀色で、より魚のような見た目をしています。

虫に食べられた本



国立国会図書館
デジタルコレクション
より

今月のまほら館

今月は節分やバレンタインデーなどいろいろなイベントがあります。今月のまほら館の展示を紹介します。



バレンタインにおすすめのあま〜い物語

バレンタイン特集として、チョコレートスイーツのレシピや恋愛小説を展示しています。

『恋文の技術』森見登美彦 ポプラ社

『初恋ソムリエ』初野晴 KADOKAWA

『銃とチョコレート』乙一 講談社



特集 2月生まれの作家たち

2月に生まれた作家の作品を展示しています。自分と同じ誕生日の作家を探してみよう！

誕生日	作家名	代表作・ジャンル (まほら館にないものもあります)
2月1日	綿矢りさ	『蹴りたい背中』『インストール』
2月1日	唯川恵	『肩ごしの恋人』『愛に似たもの』
2月9日	夏目漱石	『こころ』『坊っちゃん』『吾輩は猫である』
2月13日	芦沢央	『罪の余白』『火のないところに男は立たない』
2月15日	井伏鱒二	『山椒魚』『黒い雨』
2月17日	森鷗外	『舞姫』『高瀬舟』『阿部一族』
2月17日	梶井基次郎	『檸檬』『櫻の樹の下には』
2月20日	志賀直哉	『暗夜行路』『城の崎にて』『小僧の神様』
2月20日	石川啄木	『一握の砂』『悲しき玩具』(歌人・詩人)
2月29日	辻村深月	『かがみの孤城』『ツナグ』『冷たい校舎の時は止まる』

新刊案内

最近新しく入った本の中でおすすめのものをご紹介します。新刊コーナーに置いてあるので、ぜひ読んでみてください。



『それでも必死に、恋をしていた』
此見 えこ 著
主婦と生活社, 2025 年刊
ある同じ高校の生徒たちの切ない想いが複雑に交錯する、
1 話 6 ページ, 全 25 話収録の超短編恋愛ストーリー集。



『変な地図』
雨穴 著
双葉社, 2025 年刊
2015 年, 大学生の栗原は, 意外な事実を知る。彼の祖母が, 正体不明の古地図を握りしめて, 不審死を遂げたという。
その古地図には, 7体の妖怪が描かれていた。これはいったい何なのか。。
謎を探るため, 栗原は旅に出る。



『劇場版 TOKYO MER 走る緊急救命室 南海ミッション』
黒岩 勉 脚本 百瀬 しのぶ ノベライズ
宝島社, 2025 年刊
離島医療に対応すべく, オペ室搭載の特殊車両を載せたフェリーで島々を巡る“南海 MER”が誕生。
そんなある日, 鹿児島県・諏訪之瀬島で大規模な噴火が発生して――。



『リーゼ・マイトナー 核分裂を発見した女性科学者』
マリッサ・モス 著 中井川 玲子 訳
岩波書店, 2024 年刊
二十世紀前半, 物理学が大きな発展を遂げた時代に活躍した物理学者, リーゼ・マイトナー。なかでも「核分裂の発見」という業績は後世に多大な影響を及ぼしたが, 第二次世界大戦後, 発見の栄誉は共同研究者に奪われてしまう。ユダヤ人差別, 女性差別に遭いながらも研究を続けた, 「人間性を失わなかった物理学者」の生涯をたどる。



『シン怪談』
田辺 青蛙 編 田辺 青蛙 ほか著
興陽館, 2025 年刊
NHK 朝ドラ『ばけげ』で話題の小泉八雲の怪談をモチーフに, 小説家, 作家たちが新解釈で書き下ろした, まったく新しい「怪談集」!



『遠い山なみの光 新版』
カズオ イシグロ 著
早川書房, 2025 年刊
英国で暮らす悦子は, 娘を亡くし, 人生を振り返る。戦後の長崎で出会った母娘との記憶はやがて不穏の色を濃くしていく。



『銀座「四宝堂」文房具店』
上田 健次 著
小学館, 2022 年刊
銀座のとある路地の先に佇む文房具店・四宝堂。創業は天保五年, 地下には古い活版印刷機までであるという知る人ぞ知る名店だ。
どこかミステリアスな店員・宝田硯のもとには今日も様々な悩みを抱えたお客が訪れる――。



『幽霊を信じない理系大学生、霊媒師のバイトをする』
柞刈 湯葉 著
新潮社, 2024 年刊
幽霊見えないのに霊媒師のアルバイト? 「他人の気持ちが分からない」ことが悩みの谷原豊は, 曾祖母の死をきっかけに, 謎の霊媒師・鶴沼ハルと出会った。ハルは, 幽霊が見えず存在を信じてない理屈っぽい理系大学生の豊に, 奇妙な“慰霊”のアルバイトを依頼する。彼女の正体と, この街の秘密とは――。



『明智恭介の奔走』
今村 昌弘 著
東京創元社, 2024 年刊
神紅大学ミステリ愛好会会長・明智恭介。小説に登場する探偵に憧れ, 事件を求めて名刺を配り歩く彼は, はたしてミステリ小説のような謎に出会えるのか――大学のサークル棟で起きた不可解な盗難騒ぎ, 商店街で噂される日常の謎, 夏休み直前に起きた試験問題漏洩事件など, 書き下ろしを含む全五編を収録。